



新屋図書館だより

発行：秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町12-26 TEL 018-828-4215

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848>

No.275

R7.12・R8.1月号

トピックス



映画鑑賞会

「九十歳。何がめでたい」

日 時 12月13日(土)

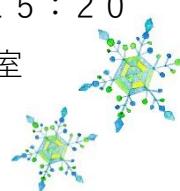
① 10:20～12:10

② 13:30～15:20

会 場 新屋図書館 研修室

定 員 各回先着30名

申込み 不要



「かぞくぶっくぱっく」に ガチャぱっくが新登場！

12月からぱっくの中身が全て新しくなりました！また、小学生向けのふたばとわかばコースに、ガチャガチャを回して借りるガチャぱっくが登場！どんな本との出会いがあるかお楽しみください！



おはなし会においでよ！

12月 冬のスペシャルおはなし会

12月 6日(土) 14:00～15:00 (幼児～小学生)

12月 9日(火) 10:30～11:00 (赤ちゃん～)

1月 冬まつり

1月10日(土) 14:00～14:40 (幼児～小学生)

1月20日(火) 10:30～10:50 (赤ちゃん～)



令和7年12月29日(月)～

令和8年1月5日(月)

秋田市立図書館の全館が休館します。

新年は、6日(火)10:00から開館。

特別整理期間中に、秋田西中学校の皆さんにボランティア体験をしていただきました！



新着案内

ヨルダンの本屋に住んでみた

フウ／著

産業編集センター 請求記号 292. 77 (紀行)

ヨルダンの本屋に一目惚れした著者が「働かせてください！」とメールを送ると、返事は「OK」のみ。その一言でヨルダンへ旅立った著者と、「我が道を行くオレオレ系」店長や多国籍の店員たちとのカオスな日常が笑いを誘う、ヨルダンの魅力が溢れる滞在記です。

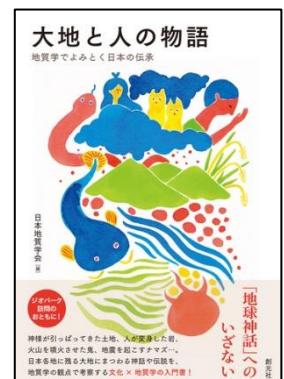


大地と人の物語 地質学でよみとく日本の伝承

日本地質学会／編

創元社 請求記号 455. 1 (地質図誌)

日本各地に伝わる神話や伝説を科学的に考察した一冊です。神様が引っ張ってきた土地や、地震を引き起こすナマズなど、古くから語り継がれてきた不思議な物語を通じて、自然災害や神秘的な現象がどのように人々に理解されてきたのかを明らかにします。



野球のルール解剖図鑑

ルールが変えた野球史、ジャッジが生んだドラマ

井野 修／監修

エクスナレッジ 請求記号 783. 7 (野球)

本書では、日米の野球のルールの変遷を振り返るほか、審判員になる方法や審判員のための暗黙のルールなど、野球の裏側についても解説。大谷翔平選手がきっかけで変更されたMLBのルールとは？MLBで導入されたピッチクロックとは？後半にはクイズも収録されています。



しごとをなくしたサンタさん

スティーヴン・クレンスキーわく S.D.シンドラー／え

好学社 請求記号 E シ (絵本) ※0～5歳向け

こびとたちが作るおもちゃをクリスマスに届けるサンタさん。準備に追われ、出発前はいつもバタバタ。ある年、プレゼントをあつという間に届ける飛行船を発明したこびとが、サンタさんに勝負を挑みます。さて、どちらがうまくプレゼントを届けられるでしょうか？





図書館員のおすすめ本

考える機械たち

歴史、仕組み、倫理—そして、AIは意思をもつのか？

インガ・ストルムケ／著

誠文堂新光社 2025年発行 請求記号 007. 13

所蔵 明徳館（人工知能）



AIを魔法のように感じている人におすすめの本です。

人工知能（AI）は近年急速に発展し、チャットサービスではあたかも人と話しているかのような自然な会話ができるまでになってきたものもあります。研究者の間では、近未来にAIが人間の能力を超える「シンギュラリティ（技術的特異点）」の到来が議論され、新しい産業革命として仕事や社会の仕組みに大きな影響を与えると考えられています。

本書では、AI開発の歴史と仕組み、AIの限界と可能性、社会での倫理的課題について、人工知能研究者が具体的な事例やユーモアを交えて、わかりやすく解説します。

SF作家A・C・クラークの「クラークの三法則」という提言に「十分に高度な科学技術は、魔法と区別できない」とあるように、AIは数学や電子工学を基にした機械なのに魔法のように見えます。

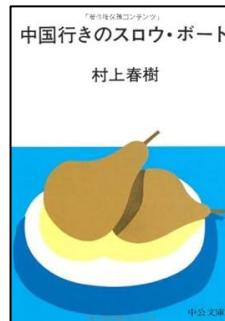
AIを理解し適正に使う視点や、AIを活用して生活する未来を考えるヒントを得られる1冊。

中国行きのスロウ・ボート

村上 春樹／著

中央公論社 1983年発行 請求記号 F ム

所蔵 明徳館、イソップ（小説）



今から40年ほど前に出版された著者最初の短編集。

表題作にもなっている『中国行きのスロウ・ボート』は、「僕」が出会った3人の中国人のエピソードからなる物語。中でも、バイト先で知り合った中国人女子学生との初デートで犯した過ちは、切ない。どうにか彼女の赦しを得たものの、その直後に2度目の、そして、取り返しのつかない過ちを犯してしまう…。3人のエピソードは何ら関連性がないように語られ、著者が表現しようとしたテーマが私には判然としない。しかし、いくつかのエピソードが、強烈に心に刺さった。

若い頃、村上春樹作品に夢中になりながらも、そのテーマの難解さに少し距離を置いていた私に、もう一度挑戦してみようかと思わせてくれた1冊。もちろん、初めて村上春樹作品を読もうかなと思っている方にもおすすめ。

酒の資料コーナー紹介（コラボ展）



竿燈の提灯グラス
夜空を彩る光の稻穂、
竿燈のイメージから生まれたグラスです。



漆工芸作品展示
秋田公立美術大学 熊谷 晃教授

記事になったお酒の話題あれこれ …ジョージアワイン…

ワイン発祥の地として、ワイン造りに8000年もの長い歴史を持つジョージア。粘土で作った大きな素焼きの甕「クヴェヴリ」を地中に埋め、ぶどうを果皮や種ごと自然発酵させるのが特徴です。地中に埋められることでワインの熟成や保存に最適な温度に保たれ、ぶどうが穏やかに熟成されるそうです。大相撲の現役引退後、故国ジョージアのワイン輸入に携わる元大関栃ノ心曰く、ジョージアワインは日本の料理とも合うし、味わいも日本人の味覚に合うそうです。味わいを楽しんでみたいですね。

【参考資料】月刊 たる 令和7年9月号

図書館員のひとりごと

それほどの読書好きではないものの、睡眠前のひとときには毎日のように本を開く。ただ、手近にある本を手に取っては寝落ちする日々。結果、何度も同じ本の同じ場所を読むことも度々。そんな私が新屋図書館に勤務して早三度目の冬。少しは読書らしい読書の習慣が身につくかと思いきや、これまでとそれほど変わらない日々。

年末年始はまとまった時間が取れそうなので、是非、以前から気になっていた本にトライしようと心に決めているものの…。

気づけばもう師走。カレンダーの残りが少なくなると、やり残したあれこれが気になり、少しそわそわしますね。今年を振り返ると反省もありますが、それも次の一步の力になる気がします。

来年の干支である丙午（ひのえうま）は情熱や前向きな力の象徴。その明るさにあやかって元気に過ごしたいですね。穏やかで笑顔の多い一年になりますように。

今年も図書館をご利用いただきありがとうございました。新しい年もよろしくお願ひいたします。